

令和3年度 西東京市立碧山小学校 学校評価表

学校教育目標	◎自分でよく考え工夫する子 ○ねばり強く前向きに取り組む子 ○人の立場に立って行動する子	
目指す学校像	プロの集団 チーム碧山！子どもの「やる気」育てます！ 子どもが生き生きと前向きに活動でき、保護者・地域から信頼される学校	
目指す児童像	・課題解決のため、主体的に考え創意・工夫する子 ・物事を前向きにとらえ、積極的かつ粘り強く取り組む子 ・人とのかかわりを大切にし、力を合わせて活動する子	
目指す教師像	・探求的・問題解決的な学習を実践し、子どもの自己解決力・自己意欲の向上を図ることが出来る教師 ・不断の向上心を持ち、前向きに工夫・改善を目指す教師 ・一人一人の子どもを大切に、子どものわずかな変化を見落とさない教師 ・学校組織の一員として協力・協働して取り組む教師 ・使命感と誇りをもち、子ども・保護者・地域から信頼される教師	

方 策	前期学校自己評価			前期学校関係者評価		後期学校自己評価			後期学校関係者評価	
	努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策	評価	記述欄	努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策	評価	記述欄
確かな学力の向上	3	3.1	タブレットを使用して9月に約1か月間、オンライン授業を行った。オンライン授業に入る前に2年生以上にタブレットの使用法やルール、マナーを指導し、保護者にもプリントを配布して周知に努めた。タブレットを使用して、オンラインで話し合いをしたり、写真機能を使って観察記録を撮ったりと、機能を生かした新しい学習に取り組んだ。	3.9	・タブレットもオンライン授業もスムーズに取り組みできるように思えた。・評価が低すぎる。・新しい試みで先生たちも苦労した中で、良く取り組み工夫したと思う。	3	3.4	前期に引き続き、1月下旬から2月中旬にかけてコロナ禍におけるオンライン授業をおこなった。全学年タブレットの使用法にも慣れ、教員も指導方法の校内研修をして、タブレットを通して写真や動画を見せるなど、分かりやすい指導方法を工夫した。今後は、タブレットの使用ルールを児童と更にしっかりと確認する。	4	先生たちの工夫で、低学年までスムーズに実施できた。タブレットで学びの可能性が広がるが、正しい目的と手段で行うこと、書く大切さも教えてほしい。児童もオンライン授業に慣れるのが大変だったろうが、先生の努力が実りつつある。
	3	2.9	本校では2年前からSDGsについての研究を行ってきた。授業内容とSDGsを関連付けたり、身の回りのことで自分たちができそうなSDGsを探したりしてきた。高学年の児童は自分たちで調べたことをまとめてビデオ撮りして全校朝会で放送し、全校児童が問題を解決する方法を考えるきっかけを作った。11月の研究発表に向けて準備を進めている。	3.7	・子どもたちから「SDGs」とよく言われる。浸透していると思う。・評価が低すぎる。・3年間でSDGsへの理解が広まった。今後も期待が大きい。	3	3.6	11月26日にSDGsの研究発表を行った。児童は、災害を防ぐことや環境を守るためにできることなどを調べることで、SDGsが自分たちの今や将来の生活を守ることに気が付くことができた。さらに、自分たちがどう取り組むか、解決できるかを友達と話し合うことで、多様な考えを取り入れて自分の考えを再構築する活動にも取り組んだ。	4	碧山の取組は西東京市でも著しい。ニュースでSDGsが出るに関心をもつようになった。児童への働きかけが理解につながっている。児童が自分でできることを考えるのはとてもよい。今後も意識してほしい。大きな成果を得た。
豊かな心の育成	3	3.4	本校では、教員全員が、いじめはいけないという意識をしっかりと持っている。校内研修を実施したり、定期的に校内いじめ防止委員会を開いていじめが起っていないか確認したりしている。いじめを発見したら学年の教員ですぐに対応し、同時に管理職や校内の教員と情報を共有し解決に向けて取り組んでいく。この取組は、継続して行っていく。	3.9	・早目に相談事に耳を傾け、対応している。・情報共有してチーム対応していることが安心につながる。・人間が共に生きる限り「いじめはある」を前提に理解し合える取組を期待している。	3	3.6	前期に引き続き、いじめを許さない姿勢を教員全員がもって取り組んだ。いじめになる言動を見付けたときや訴えがあったときは、すぐに事実関係を確認し、解決につなげた。月2回のいじめ・虐待防止委員会で報告し、全教員で情報を共有するとともに、その後の経過観察も多くの教員で実施した。	4	子供の様子をよく見ている。いじめを許さない姿勢を持ち続けてほしい。いじめの児童の背景にも気を配り丁寧に経過を見てほしい。児童も自宅に籠ってストレスも多かったろうから、相談しやすい体制をこれからも整えてほしい。
	3	3.2	「わかる授業」「温かく正しい言葉遣い」「話を丁寧に聞く」「ほめる」「心をこめた冷静な指導」「呼び捨て禁止」の項目を一人一人が意識して指導してきた。指導で困った時は、学年で相談し合ったり、管理職に相談したりして、学校全体で「西東京あったか先生」に向けて取り組んでいる。	3.9	・驚くほど先生は言葉が丁寧でよく目を配っていることに感心した。・子どもたちの多くが先生を信頼していると感じる。	3	3.7	高学年では、授業交換をすることで、教材研究をしっかりと行い、より「わかる授業」にするべく取り組んだ。また、どんな時でも「温かく正しい言葉遣い」で「心をこめた冷静な指導」になるように常に意識をした。どの学年でもいろいろな教員が適時適切に「ほめる」ことで、児童の自信と次の意欲につなげるようにしてきた。	4	いろいろな先生から教わることで多様な視点をもてる。この取組が児童の自信や自由な発想を生み出していく。分かる、褒める、授業は素晴らしい。ちょっとしたことで褒めてもらえる嬉しいので、これからも児童のよさを見付け、励ましてほしい。
	3	3	校内では教員からすすんで挨拶をしたり、「あいさつ・グッドワーク運動」を設定して挨拶を推進したりしている。挨拶が少なく感じた児童からも「挨拶をしよう」という意見が出ている。それを受けて、代表委員が朝の挨拶運動を実施し、挨拶をしてくれた人数を計測して挨拶を増やす取組を行っている。このような指導は、引き続き行っていく。	3.6	・挨拶が良く聞こえる。・制約が多かった今年度の中でも、子どもたちはいつも挨拶をしている。	3	3.6	引き続き、教員による挨拶の率先垂範に取り組んできた。代表委員の挨拶運動も行われている。教員も朝や帰りだけでなく、廊下や階段ですれ違ったときに挨拶や会釈をするようにしている。児童の挨拶はもっとできるはずなので、今後も挨拶指導は続けていく。	3.8	近所の子は挨拶をしてくれる。挨拶をし合うことで、安心し信頼し合える社会を作れている。挨拶する児童は増えてきているが、もう少し増えてほしい。声を出すことが少ない中、気持ちを明るくする挨拶が自然にできるとよい。
健やかな体の育成	3	2.4	体を動かす指導は、体育科の授業の他にも、休み時間の外遊びを推奨している。コロナ禍の影響で、運動委員会主催の運動集会在実施できない状況である。その中においても運動会の代わりに体育授業参観を設定し、表現運動や短距離走などを位置付け、児童が目的意識をもって運動に取り組めるようにしている。今後も社会状況を鑑みて、更に様々な運動に取り組ませたい。	3.7	・限られた時間の中で体育授業参観に向けて取り組め良かった。・評価が低すぎる。・コロナ対応しながら、子どもたちの体力向上への工夫がされていると感じる。	3	2.3	コロナ禍のオンライン授業で外遊びなどの体を動かす活動が一時期できなかったときがあった。その後の体育の学習や外遊びで体力向上を図ったものの、運動委員会が計画した集会は感染症対策で中止となり、十分な活動ができなかった。体育や外遊び以外の体を動かす活動は、社会状況を鑑みながら取り組んでいきたい。	3.2	寒い時期、コロナ禍で制約があり仕方ない中、先生は工夫して取り組んでいる。家庭で体を動かし遊ぶことが減っている中、学校で工夫して運動したり遊んだりすることが大切である。
	3	3.8	児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに、特別支援教育の充実を図るため、具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	4	・地域での力の使える場もあるのではないかと感じる。・保護者と連携を取って対応する必要性を感じる。	3	3.8	食物アレルギーに関する研修は今後も取り入れていき、誤食などないように意識を高めながら、正しい処置方法を身に付けていく。特別支援関係では前期と同じように組織的に取り組んでいる。必要に応じて保護者との話し合いをしながら協力で児童に対応していくようにしているが、保護者と教員との認識に隔たりも感じるため、話し合いを続ける必要もある。	4	認識の隔たりについては今後も話し合いを続けて保護者の理解が進むとよい。特別支援教育には地域の協力も活用してほしい。食育指導は、コロナ禍で不便がある中、安全と楽しい食事の両立をさせてほしい。
開かれた学校づくりの推進	3	3	緊急事態宣言の発令に伴い、ゲストティーチャーを活用する授業は計画的に進めることが難しかった。そうした中において、外国語活動で地域の方に授業支援に入ってもらったり、セーフティ教室で防災教育について指導していただいたりした。また、オンラインを活用してゲストティーチャーの方と交流する活動を一部の学年で実施することができた。	3.9	・保護者の読み聞かせが再開できると良い。・オンラインを活用するなど良く取り組んでいる。・地域や保護者と連携を取って対応している。	3	3.7	コロナ禍でゲストティーチャーや読み聞かせの計画を延長することがあった。その中で、低学年の畑の収穫体験と金銭教育、西東京カルタ、ACの活用などを実施した。2学期はSDGsの研究と関わらせて、様々な地域の人材・教材を授業に活用するよう努めた。	4	コロナ禍、外部との交流が難しい中、可能なやり方で地域の人材を活用できて変化のある体験ができて良かった。読み聞かせを再開させてほしい。
	3	2.7	学校便りと学年だよりは月初めに1回、必要な時にホームページを更新して家庭への連絡をこまめにしている。緊急の場合は、一斉メールを配信している。また、本年度は感染症対策のためオンライン授業も実施したが、その際はタブレットのクラスルームを通して児童への連絡をしてきた。今後もそれぞれの長所を考えて活用していく。	3.9	・お知らせ、便りは手がかかるが良く取り組んでいると思う。・情報が適切な時に配信されている。わからないことがあっても電話対応してもらっている。	3	3.1	学校の情報や教育活動については、ホームページ・メール・書面などで保護者に伝えてきた。研究に関する報告も校内研究便りで知らせた。来年度も引き続き情報発信をしていながら、地域に開かれた学校を目指していく。	3.8	ホームページ、学校便りは充実している。学校便り等で取組や方針を知ることができた。情報発信はよくできている。
働き方改革	3	1.4	残念ながら、仕事の効率化を進め、時間外労働を減らすことはできなかった。仕事の内容は変わらないので、計画を立てて効率化を図ったり、優先順位をついたり、学年で分担して行ったりしていく必要がある。今後も引き続き仕事の効率化に取り組んでいきたい。	3.7	・先生方の仕事量が多すぎだと思う。人手を増やしてほしい。・先生たちの細やかな授業への取組を見ると時間はいくらあっても足りないと思う。	3	1.2	本年度は、普段の教育活動と同時に、オンライン授業も加わり、オンライン授業の研修や準備、タブレット学習の準備などに予測以上の時間がかかることもあった。今後は、軽重や優先順位を明確にして業務に従事するようにする。	3.1	評価が低すぎる。先生がゆとりをもって働けるように増員が必要。今年度、オンライン学習に取り組んだため普通以上の時間がかかったのではないかと感じる。この経験を来年度も利用できる負担が減るのではないかと感じる。